

耳

炭婦協初の總蹶起大會

主婦の横顔



三ノ血を流す

三
鉉陸競記錄會賑合ふ

天候が晴れた十一月十日、霧本町常務で過労死の
二日酔い、鬱病、タコ太り大體滅
亡の際の日曜を前門へ、聖安堂
の向ひで描かれた高麗を愛ふ
國上嬢のおオプン太を開設し
た。圖中の各机折折機控でなく
おオパンで開けられせぬ女は
腰巻もちて年輩になんか出
掛けるものゝ、床の縁をさへ觸
れたい。時々高麗生を袖し各房
玩やうとつ取入出願したる願
味を察した。

早く

在

早く地域分會を

待つてゐる社宅情宣

田村へ一歩出掛け 岩渚社宅で
三次家の説明をなし、原社宅に
て二階より銀水社宅間接道を通
る後登壇頭まで入った。

長を屈して一瞬
見の眺海が出来たのではない
と願ひまして特にこの点私は
望みたいのです。

同着者 石道さんの意見は非常
に的確に的を射て居ります

共濟會の
貸付金は

口のない壺
底のない壺

九大助教授 奥田 八二

こだま
木

[illegible][illegible][illegible]

總する事なく見事
委員会に報告して

[illegible]

のおつるの知人の所在が判つた

[illegible]

敵野、おつとる道
 人、目には雲の母
 と見えたが、実は
 つるが大陸で終戦
 迎えた年、道子の
 水際に瀧まいて青
 た娘。母娘と隣人

丁巳、首陽

井井は着腰と抱つるの間を巧妙に
 過つて金利を言論め、暴力で道
 徳を説いて過つて聲がら響
 けり。おつは法廷に立たせられ
 友友八八重子によつて真相が露
 せられ、聞けて相握する。(廿一
 金腰上坂)
 監修 佐伯幸三
 キヤスト
 ……三益愛子 今井…河津

て壁がら

友八八重子によつて真相が露
 され、明れて相擁する…(廿一)
 ……(金沢上原)
 監査 佐伯幸三
 キヤスト
 のつる…三條愛子 今井 河津
 三郎 導子 白鳥みづえ 八
 重子 日高澄子 斎藤 高田裕
 郎…ハモ三力小僧

館

割引券
每通適用
三鑛勞組

組	罰	金映	右門	人形	会	二輛
---	---	----	----	----	---	----